

研究機関：広島大学

研究課題名	膵癌術前化学療法中の胆道ドレナージにおける covered metal stent の有用性
研究責任者名	広島大学病院 消化器・代謝内科 准教授 相方 浩
研究期間	(倫理委員会承認後) ~ 2024年 3月 31日
対象者	<p>当院で外科的切除術が施行された膵癌症例のうち、胆道閉塞に対し胆道ステントを留置され、かつ術前化学療法を行われている方。</p>
意義・目的	<p>膵癌は非常に予後不良な疾患であり、5年生存率は10%未満とされています。膵癌の根治には外科的切除が必要ですが、外科切除率は約20%と低く、術後の高い再発率も問題です。近年、外科的切除が可能な膵癌に対して術前化学療法を行うことにより術後の予後が延長されることが本邦より報告され、切除可能膵癌に対する術前化学療法は標準治療となりました。また切除可能境界膵癌に対する術前化学療法の有用性も報告されてきています。</p> <p>一方、膵癌は膵頭部に好発し、閉塞性黄疸をしばしば伴います。黄疸を伴う症例では化学療法開始前に胆管ステント留置術を必要とする場合が多く、術前化学療法を円滑に行うためには安全かつ効果的なステント留置が重要です。胆管ステントには plastic stent と metal stent があり、切除不能膵癌においては covered metal stent が有意に長い開存期間が得られ、第一選択とされています。しかしながら、切除可能膵癌、切除可能境界膵癌に対する術前化学療法中のドレナージについては十分なエビデンスがなく、いまだ至適なドレナージ方法については確立されていません。</p> <p>今回我々は、膵癌術前化学療法中の至適ドレナージ法を明らかにすることを目的とし、本研究を計画しました。術前化学療法中に有用なステントが明らかになれば、術前化学療法中のQOLさらには予後改善に繋がる可能性があります。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は性別、年齢、血液検査所見、画像検査所見（CT、MRI、EUS、ERCP）、術前・術後病理診断結果、化学療法のレジメンおよび治療期間、術後偶発症等です。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 消化器・代謝内科 診療講師 石井 康隆
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5192 (内線4273) 広島大学病院 消化器・代謝内科 クリニカルスタッフ 古川 大</p>